

特別養護老人ホームオペラハウス鴨方運営規程

(事業の目的)

第1条 社会福祉法人岡山千鳥福祉会が開設する特別養護老人ホームオペラハウス鴨方（以下「施設」という）が行う指定介護老人福祉施設サービス（以下「サービス」という）の適正な運営を確保するために人員及び管理運営に関する事項を定め、施設の管理者や職員が、要介護状態にある高齢者に対し、適切なサービスを提供することを目的とする。

(運営の方針)

第2条

- 1 施設サービス計画に基づき、可能な限り、居宅での生活への復帰を念頭において、入浴、排泄、食事等の介護、相談・援助、社会生活上の便宜の供与、その他の日常生活上の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行う。このことにより、入所者がその有する能力に応じ、自立した生活を営むことができることを目指す。
- 2 入所者の意思や人格を尊重し、常に入所者の立場に立ってサービスを提供するように努める。
- 3 明るく家庭的な雰囲気の下、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、市町村、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、他の介護保険施設、保健医療サービス・福祉サービスの提供者との密接な連携に努める。

(施設の名称等)

第3条 施設の名称及び所在地は、次のとおりとする。

- 一 名称 特別養護老人ホームオペラハウス鴨方
- 二 所在地 岡山県浅口市鴨方町地頭上567番地

(職員の職種、員数、及び職務内容)

第4条 施設に勤務する職員の職種、員数、及び職務内容は次のとおりとする。

- 一 管理者 1人（常勤）
常勤にて専ら施設の職務に従事し、施設職員の管理、業務の実施状況の把握その他の管理を一元的に行う。また、職員に必要な指揮命令を行う。
- 二 医師 2人（非常勤・内科）
入所者に対して、診療及び健康管理、保健衛生指導を行う。
- 三 生活相談員 1人（常勤）
入所者の生活相談、処遇の企画や実施等を行う。
- 四 介護職員 27人以上
入所者の日常生活全般にわたる介護業務を行う。
- 五 看護職員 3人以上（常勤1人以上を含む）
入所者の保健衛生ならびに看護業務を行う。
- 六 管理栄養士 1人以上（常勤）
食事の献立作業、栄養計算、入所者に対する栄養指導等を行う。

- 七 機能訓練指導員 1人以上
日常生活を営むのに必要な機能を改善し、またはその減退を防止するための訓練を行う。
- 八 介護支援専門員 1人以上（常勤1人以上を含む）
施設サービス計画の作成等を行う。
- 九 事務職員 3人以上
必要な事務を行う。
- 十 調理員 6人以上
給食業務を行う。

（入所定員）

- 第5条 施設の入所定員は、次のとおりとする。
- 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム） 80人
 - 短期入所生活介護（ショートステイ） 10人

（定員の遵守）

- 第6条 災害等やむを得ない場合を除き、入所定員及び居室の定員を超えて入所させない。

（施設サービスの内容）

- 第7条 施設が提供するサービスの内容は、次のとおりとする。
- 一 入浴、排泄及び食事等日常生活上の基本介護
 - 二 日常生活上の相談及び援助
 - 三 健康管理および健康保持のための措置
 - 四 機能訓練
 - 五 要介護認定申請に係る代行および施設サービス計画の作成その他

（手続きの説明及び同意）

- 第8条 施設は、サービス提供の開始に際して、入所申込者またはその家族に対して、運営規程の概要、職員の勤務体制、その他サービスの選択に資する重要事項を記した文書を交付して説明を行い、同意する旨の文書に署名を受けるものとする。

（入退所）

- 第9条
- 1 心身に著しい障害があるために常時の介護を必要とし、かつ居宅において常時の介護を受けることが困難な者に対して、サービスを提供する。
 - 2 正当な理由なくサービスの提供を拒否しない。
 - 3 入所申込者が入院治療を必要とする場合や、入所申込者に対して適切な便宜を供与することが困難な場合には、適切な医療機関や介護老人保健施設を紹介する等の措置を速やかに講じる。
 - 4 入所者の入所申し込みの際に、心身の状況、病歴等の把握に努める。
 - 5 入所者の心身の状況、置かれている環境等に照らし、入所者が居宅で日常生活を営むことができるか否かを検討する。検討にあたっては、職員間で協議する。
 - 6 居宅での日常生活が可能と認められる入所者に対して、本人及びその家族の要望、退所後に

置かれる環境等を勘案し、円滑な退所のための援助を行う。

- 7 入所者の退所に際して、居宅介護支援事業者に対する情報の提供や、保健・医療・福祉サービスの提供者との密接な連携に努める。

(要介護認定の申請に係る援助)

第10条 入所の際に要介護認定を受けていない入所申込者について、要介護認定の申請がすでに行われているか否かを確認する。申請が行われていない場合は、入所申込者の意思を踏まえ、速やかに申請が行えるよう援助する。

(施設サービスの計画の作成)

第11条

- 1 施設の管理者は、介護支援専門員に、施設サービス計画の作成に関する業務を担当させる。
- 2 施設サービス計画の作成を担当する介護支援専門員（以下「計画担当介護支援専門員」という）は、入所者の能力、置かれている環境等の評価を通じて問題点を明らかにし、入所者の自立を支援する上での課題を把握する。
- 3 計画担当介護支援専門員は、入所者の家族の希望、把握した課題に基づき、施設サービスの原案を作成する。原案は、他の職員と協議の上作成し、サービスの目標とその達成時期、サービスの内容、サービス提供の上で留意すべき事項等を記載する。
- 4 計画担当介護支援専門員は、施設サービスの原案について入所者に説明し、同意を得る。
- 5 計画担当介護支援専門員は、施設サービス計画の作成後においても、他の職員との連携を継続的に行い、施設サービス計画の実施状況を把握する。また、必要に応じて、施設サービス計画の変更を行う。

(サービスの取り扱い方針)

第12条

- 1 入所者の心身の状況等に応じて、適切な処遇を行う。
- 2 サービスの提供は、施設サービス計画に基づき、漫然かつ画一的なものとならないよう配慮して行う。
- 3 職員は、サービスの提供にあたって、入所者またはその家族に対して、必要事項をわかりやすく説明する。
- 4 入所者本人または他の入所者等の生命・身体を保護するため緊急やむをえない場合を除き、身体的拘束その他入所者の行動を制限する行為を行わない。なお、身体拘束を行う場合は、当施設の身体拘束廃止委員会において十分に検討し、ご家族に対し身体拘束の内容、目的、理由、時間帯、期間等を詳細に説明し、了解を得た上で行うものとする。
- 5 サービスの質の評価を行い、常にその改善を図る。

(介護)

第13条

- 1 1週間に2回以上、適切な方法により入所者を入浴させ、または清拭する。
- 2 心身の状況に応じて、適切な方法により、排泄の自立について必要な援助を行う。
- 3 おむつを使用せざるを得ない入所者について、おむつを適切に交換する。

- 4 離床、着替え、整容等の介護を適切に行う。
- 5 入所者3人に1人の割合以上の職員を介護に従事させる。
- 6 入所者に対し、その負担により、施設の従業者以外の者による介護を受けさせない。

(食事の提供)

第14条

- 1 食事の提供は、栄養、入所者の身体状況・嗜好を考慮したものとし、適切な時間に行う。また、入所者の自立支援に配慮して、可能な限り離床して食堂で行う。
- 2 食事の時間はおおむね次の時間とする。
 - 一 朝食 午前7時30分～
 - 二 昼食 午前11時30分～
 - 三 夕食 午後5時30分～

(相談及び援助)

第15条

入所者またはその家族に対して、その相談に適切に応じるとともに、必要な助言その他の援助を行う。

(社会生活上の便宜の供与等)

第16条

- 1 教養娯楽設備等を備えるほか、適宜入所者のためレクリエーションの機会を設ける。
- 2 入所者が日常生活を営むのに必要な行政機関等に対する手続きについて、入所者またはその家族が行うことが困難である場合は、その同意を得て代行する。
- 3 常に入所者の家族との連携を図り、入所者と家族の交流等の機会を確保する。

(機能訓練)

第17条 入所者の心身の状況等に応じて、日常生活を営むのに必要な機能を回復し、またその減退を防止するための訓練を行う。

(健康管理)

第18条 施設の医師または看護職員は常に入所者の健康管理に努め、必要に応じて健康保持のための適切な措置をとる。

(入所者の入院期間中の取り扱い)

第19条 入所者が医療機関に入院する必要が生じたとき、3ヶ月以内の退院が明らかに見込まれる場合には、本人及び家族の希望等を勘案して必要に応じて適切な便宜を供与するとともに、やむをえない事情がある場合を除き、退院後再び施設に円滑に入所できるようにする。

(利用料等の受領)

第20条

- 1 サービスを提供した場合の利用料の額は、厚生労働大臣が定める基準によるものとし、当該

サービスが法定代理受領サービスであるときは、その一割とする。

- 2 法定代理受領サービスに該当しないサービスを提供した場合に入所者から支払いを受ける利用料の額と、厚生労働大臣が定める基準により算定した費用の額との間に、不合理な差額が生じないようにする。
- 3 前2項のほか、次に掲げる費用を徴収する。
 - 一 居住費として厚生労働大臣が定める費用の額を基準費用額とし、金額は〔別表1〕の額とする。ただし、特定の入所者については所得の状況により段階的に定められた負担限度額が摘要される。
 - 二 食費として厚生労働大臣が定める額を基準費用額とし、金額は〔別表1〕の額とする。ただし、特定の入所者については所得の状況により段階的に定められた負担限度額が摘要される。
 - 三 理容代 実費とする。
- 4 サービスの提供にあたって、入所者またはその家族に対して、サービスの内容・費用について説明し、入所者の同意を得る。また、併せてその内容を明示した文書により支払いに同意する旨の署名（記名押印）を受ける。

（保険給付の請求のための証明書の交付）

第21条 法定代理受領サービスに該当しないサービスの費用の支払いを受けた場合には、サービスの内容、費用の額その他必要事項を記載したサービス提供証明書を入所者に交付する。

（日課の励行）

第22条 入所者は、管理者や医師、看護職員、介護職員、生活相談員、機能訓練指導員などの指導による日課を励行し、共同生活の秩序を保ち、相互の親睦を図る。

（外出及び外泊）

第23条 入所者が外出・外泊を希望する場合には、所定の手続きにより管理者に届け出る。

（健康保持）

第24条 入所者は健康に留意するものとし、施設で行う健康診断等は、特別な理由がない限り受診する。

（衛生保持）

第25条 入所者は、施設の清潔、整とん、その他環境衛生の保持のために施設に協力する。

（禁止行為）

第26条 入所者は、施設内で次の行為をしてはならない。

- 一 宗教や信条の相違などで他人を攻撃し、または自己の利益のために他人の自由を侵すこと。
- 二 けんか、口論、泥酔などで他の入所者等に迷惑を及ぼすこと。
- 三 施設の秩序、風紀を乱し、安全衛生を害すること。
- 四 指定した場所以外で火気を用いること。
- 五 故意に施設もしくは物品に損害を与え、またはこれを持ち出すこと。

(非常災害対策)

第27条

- 1 非常災害に備えて必要な設備を設け、消防、避難に関する計画を作成する。
- 2 非常災害に備え、少なくとも6ヶ月に1回は避難、救出その他必要な訓練等を行う。

(受給資格等の確認)

第28条

- 1 サービスの提供を求められた場合は、その被保険者証によって、被保険者資格、要介護認定の有無及び要介護認定の有効期間を確かめる。
- 2 前項の被保険者証に認定審査会の意見が記載されている場合には、当該意見に配慮してサービスの提供をする。

(入退所の記録の記載)

第29条 入所に際して、入所年月日、施設の種類・名称を被保険者証に記載する。また、退所に際しては、退所年月日を被保険者証に記載する。

(入所者に関する市町村への通知)

第30条 入所者が次の各号のいずれかに該当する場合には、遅延なく、意見を付してその旨を市町村に通知する。

- 一 正当な理由なしにサービス利用に関する指示に従わないことにより、要介護状態の程度を悪化させたと認められるとき。
- 二 偽りその他不正行為によって保険給付を受け、または受けようとしているとき。

(勤務体制の確保等)

第31条

- 1 入所者に対して適切なサービスを提供できるよう、職員の勤務体制を定める。
- 2 施設の職員によってサービスを提供する。但し、入所者の処遇に直接影響を及ぼさない業務については、この限りではない。
- 3 従業者の資質向上のための研修の機会を次のとおり設ける。
 - 一 採用時研修 採用後3ヶ月以内
 - 二 継続研修 年12回

(衛生管理等)

第32条

- 1 設備等の衛生管理に努め、または衛生上必要な措置を講じるとともに、医療品・医療用具の管理を適正に行う。
- 2 感染症の発生、まん延防止を防ぐために必要な措置を講じる。

(協力病院等)

第33条 入院治療を必要とする入所者のために協力病院を定める。また、協力歯科医療機関を定める。

(掲示)

第34条 施設内の見やすい場所に、運営規程の概要、職員の勤務体制、協力病院、利用料その他のサービスの選択に資する重要事項を掲示する。

(秘密保持等)

第35条

- 1 職員は、正当な理由なく、業務上知り得た入所者またはその家族の秘密を漏らしてならない。
- 2 退職者等が、正当な理由なく業務上知り得た入所者またはその家族の秘密を漏らさぬよう、必要な措置を講じる。
- 3 居宅介護支援事業者等に対して、入所者に関する情報を提供する際には、あらかじめ文書により入所者の同意を得る。

(居宅介護支援事業者に対する利益供与の禁止)

第36条

- 1 居宅介護支援事業者またはその従業者に対して、要介護被保険者に施設を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益の供与はしない。
- 2 居宅介護支援事業者またはその従業者から、施設からの退所者を紹介することの対償として、金品その他の財産上の利益を収受しない。

(苦情処理)

第37条

- 1 入所者からの苦情を迅速かつ適切に対応するため、苦情受け窓口を設置するなど必要な措置を講じる。
- 2 提供するサービスに関して、市町村からの文書の提出・提示の求め、または市町村職員からの質問・照会に応じ、入所者からの苦情に関する調査に協力する。市町村から指導または助言を得た場合は、それに従い、必要な改善を行う。
- 3 サービスに関する入所者からの苦情に関して、国民健康保険団体連合会の調査に協力するとともに、国民健康保険団体連合会からの指導または助言を得た場合は、それに従い、必要な改善を行う。

(地域との連携)

第38条 運営にあたって、地域住民または住民の活動との連携、協力を行うなど、地域との交流に努める

(事故発生の防止及び発生時の対応)

第39条

- 1 サービスの提供により事故が発生した場合には、速やかに市町村、家族等に連絡を行うとともに、必要な措置を講じる。
- 2 サービスの提供により、事故が発生した場合には、損害賠償を速やかに行う。但し、施設の責に帰すべからざる事由による場合は、この限りではない。

(会計の区分)

第40条 サービスの事業の会計をその他の事業の会計と区分する。

(記録の整備)

第41条

- 1 従業者、設備及び会計に関する諸記録を整備する。
- 2 入所者に対するサービス提供の諸記録を整備し、その完結の日から5年間保存する。

第42条 この規程に定める事項のほか、運営に関する重要事項は社会福祉法人岡山千鳥福祉会と施設の管理者との協議に基づいて定めるものとする。

付則

- この規程は、平成12年4月1日から施行する。
- この規程は、平成13年4月1日から施行する。
- この規程は、平成13年11月20日から施行する。
- この規程は、平成14年6月17日から施行する。
- この規程は、平成14年7月1日から施行する。
- この規程は、平成14年12月1日から施行する。
- この規程は、平成16年9月20日から施行する。
- この規程は、平成16年12月15日から施行する。
- この規程は、平成17年10月1日から施行する。
- この規程は、平成18年4月1日から施行する。
- この規程は、平成19年4月1日から施行する。
- この規程は、平成20年7月1日から施行する。
- この規程は、平成20年8月1日から施行する。
- この規程は、平成23年4月1日から施行する。
- この規程は、平成25年1月1日から施行する。
- この規程は、平成25年10月1日から施行する。
- この規程は、平成26年4月1日から施行する。

〔別表 1〕

指定介護老人福祉施設事業所の居住費及び食費に係る費用

(第 20 条 3 項一及び二に定める実費は次の表による額とする。)

利用者負担限度額	居住費(多床室)	居住費(従来型個室)	食 費
第 1 段階	0 円	320 円	300 円
第 2 段階	320 円	420 円	390 円
第 3 段階	320 円	820 円	650 円
第 4 段階	320 円	1,150 円	1,380 円

(1 日につき)